

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームおがきえ
(ユニット名)	風ユニット
所在地 (県・市町村名)	刈谷市小垣江町永田8番地1
記入者名 (管理者)	兵藤 美千代
記入日	平成19年7月2日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	‘ささえ愛・みつけ愛‘を基にその人らしい生活を支え、気付き見守りができる理念になっている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に理念を伝えると共に、日々の利用者への関わりを振り返るため玄関・休憩室・事務所等に理念の掲示をしている。	<input type="radio"/> 朝礼・ミーティングの場で折にふれ、理念についての話し合い、確認をしていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や運営推進会議に関わる委員の方々には理解してもらっているが、地域の人々までには至っていない。開所前に事業所の理念・役割を伝えたが進展しないままになっている。	<input type="radio"/> 地域向けのおたよりを作り回覧板等で配り、理解をしていただく。(利用者と家族の同意を得たうえで)
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩に行き、近所の人達と挨拶を交わし話をしていく。回覧板等を持ってきてくださり、いつでもホームを見ていただけるよう接している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに参加している。地区の中学生の体験学習をとおして交流がある。	<input type="radio"/> 今後も地域の行事等に家族の理解を得ながら参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献には結びついてはいない。ただ人材育成のため実習生の受け入れは行っている。	○	今後は町内会・老人会へ働きかけ、地域に貢献できるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行えなかったが(11人実施)その時々において結果の改善をミーティング等で取り組んでいる。また、前回の評価からの改善指示についてできることから取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーからの意見・要望・質問を参考に改善し、サービス向上に活かすよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議をとおして以前よりは市とも連携が取れるようになってはきたが、共に取り組むまでには至っていない。	○	運営上の課題、悩み等相談できるような関係作りを進めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員を除いて全ての職員が成年後見制度や地域福祉権利擁護を理解しているとはいえない。そのため、必要な支援ができるまでには至っていない。利用者や家族には成年後見制度等の話をしている。(管理者)	○	必要な人には活用できるように関係機関へ働きかけをしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや朝礼時に新聞やニュース等で取り上げられた事例を挙げ、虐待が行われないよう注意し話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとって説明をしている。利用料金・起こりうるリスク・医療との連携等々詳しく説明し同意を得るようにしている。また、事業所でできることできないことについても説明をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の相談員が2ヶ月に一度訪問し、利用者の相談にのって頂いている。その意見を取り入れサービスに反映させている。また利用者からの希望・不安がでた折々にユニット毎に話し合っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回、個々の状態報告や行事や暮らしぶりを掲載した‘おがきえ便り‘を家族へ送付すると共に、面会時や状況によって電話で報告している。金銭管理は個人の出納帳を作成しいつでも提示できるようになっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望等を伺い、面会時には話し掛けをし意見の求めに対応している。契約時にも必ず、相談・苦情窓口の説明をしている。	○ 面会者記録と共に‘気付き箱‘の設置を考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで職員の意見・要望を聞きながらテーマを決め、話し合っている。また、不満や意見を出しやすいよう休憩室に意見箱を設置している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来る限り柔軟に対応できる職員の配置をしている。また管理者は夜間や利用者の状態の変化に応じた体制をとっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不安を少なくするため、新規の職員はその都度利用者に紹介している。また異動の時期や引継ぎ等には利用者にダメージをあたえないよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修に職員の段階に応じて受講できるようにし、育成に努めている。また研修レポートの提出を義務とし、職員が見るようにしている。	○ 何らかの研修を全員の職員が受講できるように年間計画を立てたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の見学を通して交流する機会を作り、サービスの質を高めるように努めている。	○ 他のグループホームへの実習(研修)を受けさせてもらいたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員との懇談会やグループホーム交流会の場を設ける等の工夫をしている。年1回、全職員にヒアリングを行い、意見の実施に取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月一回社長ミーティングを行っていて、利用者の状態や職員の業務・不満等の報告をし把握している。また職員の資格取得に金額面で配慮している。	○ 運営者が10日に一度の割合で来所するようにし、職員共々利用者との関わりを多くしていく。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所の相談がある時は、必ず本人と一緒に見学をしていたくように努めている。家族のみの見学の場合は生活状態の把握し、他のサービス利用時のサマリー等も参考にし利用者の不安をなくすよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が希望している事、これまでの経緯について時間をかけて話を聞いている。入居利用にならない場合も話を聞き、助言をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の思いや状況の確認をし、他の事業所のサービス利用に繋げる対応をしている。	○	地域包括支援センターとの連携を深めたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族と一緒に事業所の見学をしてもらう事から始め、入居前に‘おためし期間‘を利用してもらい本人の納得と安心を得たうえで利用してもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごし、支えあって和みのある生活ができるように声掛けをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを受け止め、毎日の暮らしの事・気付いた事を家族に伝え、共に本人を支えていく気持ちがある事を伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態を報告し、面会時に説明している。また一緒に過ごす事の出来る利用者や家族には外出・外泊等を勧めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より行きつけの美容院に行っている利用者もいて、個々の生活を大事にするよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やお茶の時間は職員も共に席に着き、会話が弾むような心がけている。また利用者同士がうまく関わられるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方の所へ利用者と一緒に訪ねたり、見舞ったりしている。また家族からの相談にもものっている。	○	事業所に気軽に行き来できる関係作りをしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で声掛けし、言葉や表情で個々の思いを掴むように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から具体的な情報を聞き、また友人・知人の面会時にも少しづつ過去の話を知っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムにそって出来ることを把握し、活かすように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族に毎日の関わりの中で、思いや要望を聞いている。また職員でミーティングや朝礼時にカンファレンスを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は4月・10月に設定してあるが、利用者の状態に変化がある場合はカンファレンスを行い見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事・水分量・排泄等の身体状況や日々の生活の様子、本人の言葉・エピソード等の記録をしている。職員間で確認ができ、また勤務開始前に目をおすようにしている。また利用者の状況変化も記録し、朝礼時等に情報共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な対応で満足できるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らせるように、警察・消防署・民生委員の意見をもらったり協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じて、ヘルパーの支援を利用できるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今現在では協力体制が整っていない。	○	成年後見制度が必要と思われる利用者があるので、地域包括支援センターの協力をお願いしたいと思っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の納得、希望するかかりつけ医に受診している。個々の疾患に対しては基本的に家族が同行し受診しているが、不可能な場合は職員が代行している。契約時に説明し、同意を得ている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	開所より専門医への受診支援をし、医師より指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員がおり、利用者の健康管理や状態変化に対応できるようにしている。	○	近い将来、訪問看護ステーションとの契約をしたいと思っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人に関する情報を提供し、職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換をしながら退院支援ができるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度者や終末期の方を利用の対象とはしていないが、利用者・家族が安心できるように日常の健康管理や急変時の対応についての説明をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に関しては現在実施していない。	○	今のところ終末期の取り組みは考えてはいないが、近い将来にはと思っている。以前2例程実例がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいの中でも今までの生活が維持できるように、生活環境・支援の内容・注意点などの情報提供(サマリー等)をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝礼・ミーティング時に利用者への関わり方について話し合っている。例えば、トイレ誘導の際本人のそばで目立たずさりげない言葉かけで支援するように対応している。また本人・家族・外来者の前でプライバシーに関わる事項は話さないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合わせた話し掛けをしている。お茶の時間等でも飲み物の希望を聞くなど本人に決めてもらう場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの基本はあるが、個々の体調を見ながら散歩や食品の買い物等の外出などできるだけ利用者の思いに対応している。	○ 管理し過ぎないでその人らしく生活できるよう支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々のなじみの理美容院で整髪できるよう支援している。自己決定が難しい利用者には出張理美容師によって支援している。	○ 家族の協力を求め、個々の望む支援ができるようにしたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	支度や片付けなど利用者が出来ることは職員の見守りの中一緒に行っている。食事は利用者・職員が同じテーブルで同じものを食べる楽しい場としている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の望む好みのは、他の利用者の気持ちを考慮し個々の居室で楽しんでもらうように工夫している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意の無い利用者には時間をみながらトイレで排泄できるよう誘導している。個々の状態に合わせて最小限の尿パット・紙パンツ等を使い分けて支援している。	○	個々の状態に応じて、可能な限り普通の下着で過ごせるようにしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっているが、本人の希望を聞きながら入浴をしてもらっている。順番等の希望にもその都度対応できるように工夫している。	○	現在は午後14時からだが、夕食後19時以降に入浴できるようにしていきたいと思っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。個別の体調の状態に合わせて休息を取り入れている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力を引き出す仕事をしてもらっている。食事作りや干し柿づくり、畑の世話など。また、外出先や楽しみ事の希望を聞き出来る限り対応している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にお金を支払う場面において、自分で払うことができるようにお金を手渡している。一部の利用者はお金を所持しており、必要に応じて本人が支払うように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や希望、天候によって気分転換のできる散歩やドライブ等に出掛けている。利用者の好みに合わせて喫茶店や外食、散歩やおやつを持って出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力で墓参りなどの外出ができるように努めている。また当ホームの行事として、利用者全員参加の日帰りバス旅行を年2回実施している。	○	個別の外出がもてる機会を出来るだけ多くしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年全ての利用者が年賀状を出せるよう支援している。また希望に応じて自由に電話が使えるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰もが気軽に来所できるよう心がけている。食事時間と18時以降以外は自由に訪問できるようになっている。面会時には必要に応じて利用者の様子を伝えている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼・ミーティング時に当ホームでは身体拘束は禁止であると話し、すべての職員が認識している。夜間不潔行為のある利用者には随時見守り等の対応を心がけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけていないため、利用者が外へ行きたい様子があれば声を掛け一緒に付いていくという対応をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者のいる場所で記録等の作業をしながら、全員の様子を把握するようにしている。夜間は巡回時の様子や見守り、状況変化に対応できる工夫をしている。日中はフロアには必ず職員がいるように工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況変化によって注意し、対応している。薬・消毒液・殺虫剤は鍵のかかる保管庫へ、洗剤・包丁は扉のついた目の届かない場所へ置いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の状態から予測される危険を話し合い、事故が起きないように工夫している。夜間、ベッドから転落する利用者にはマットレスを床に敷くなど個々に対応している。ヒヤリ・ハットを記録し、ミーティングで話し合ったり、事故発生時は事故報告書を作成し予防対策を話し合い家族にも報告し説明している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを整備し(特に夜間)マニュアル確認に努めるようにしている。消防署の協力・指導のもと救急手当てや蘇生術の研修を受けている。	○	定期的に蘇生術の研修を受講できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に非難訓練を実施している。消防署の指導を得て、避難訓練と共に避難経路の確認や消火器の使い方も定期的に訓練している。また地域へは運営推進会議で避難訓練等の報告をし、協力への働きかけをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	加齢にともない転倒・持病の悪化が高くなるが、利用者の行動を抑えない生活をしていただくための説明をし理解をいただけるよう努めている。	○	家族の面会時、利用者の状態の様子と予見できるリスクの内容の説明とそれに対する対応を報告し、理解を得られるように努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は普段の状況を把握しており、食欲や顔色のほか様子等何か変化がある場合はバイタルチェックを行い記録している。また状況によって受診している。利用者の変化に気付いた時は上司に報告し、職員間で情報共有し対応している。	○	毎日のバイタルチェックを実施し、記録している。変化がみられる時は適時再検して記録している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルに収めており、職員が把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡しし、きちんと服薬できているか確認している。薬の変更時は様子観察の強化や記録をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、散歩や体操など体を動かす機会を適度に設けて自然排便に結びつけるようにしている。	○	薬に頼らないように一部の利用者はプルーンを飲用し、自然排便に結びつけている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は歯磨きの声掛けをし、見守りや一部介助をしている。口腔ケアの必要性を職員が理解し、利用者に合わせて対応を心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表に記録し、職員が把握に努めている。食事内容はホーム日誌に記録し、メニュー表の保管や大まかなカロリー計算をし栄養・食事摂取量の把握に努めている。	○	水分の摂取量のチェックを加えたい。(7/1より実施～)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、季節や地域で流行している感染症について朝礼時に予防・対策の話し合いをしている。利用者・職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策としてタオルからペーパータオルに移行し使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾・まな板は毎日漂白し清潔を保ち、冷蔵庫の点検・掃除をし食材の状態を管理している。新鮮な食材の使用に努め、その日の食材はなるべく使い切りにして食品の残りの点検をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチ・プランターなどを置き、雰囲気の良い玄関になるようにしている。下駄箱の上にも観葉植物等を置き、季節感ができるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは利用者の手作りの物などを置き、季節感や生活観を感じ心地よい空間になるよう工夫している。またその時々合わせた音楽を流し、テレビを観るだけになってしまわないよう気分転換を図っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関に長椅子を置き、絵や観葉植物等を置いている。またお茶を焚き和みのある空間を作っている。中庭のベランダには縁台を置き、思い思いにくつろげるようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・布団・タンスなど利用者のなじみの物を持ってきてもらい、使ってもらっている。(好みのカレンダーや家族の写真、ラジオなど)利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロア部分は常に空気入れ替えをしている。トイレ・洗面所・風呂場は換気扇と消臭剤を使用し、悪臭がないよう工夫している。温度調節は利用者の様子をみながら調整している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の活動性を維持するために浴室・トイレ・廊下・手すりなど環境整備し、安全性と自立への配慮をしている。居室内の敷物に滑り止め等の工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって自室が分かるように手作りの名札を付けている。また共有部分も認識しやすいように目印の表示を大きくし、状況に合わせた工夫に努めている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周り・中庭に花や外周りに家庭菜園を作り、利用者が日常的に楽しめるよう整えている。中庭の縁台で日向ぼっこができるようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎日の始まりの位置づけと運動のため、全ての利用者様にラジオ体操に参加して頂いています。最初は出来なかった方も皆さん出来るようになりました。
- ・なるべく自然な排泄をして頂くように、積極的にオムツを外して下着を使用して頂く対応をしています。
- ・ホームの敷地内で野菜作りができるようになっていきます。収穫の喜びや、土に触れながら季節を五感で感じられる生活をして頂いています。
- ・メリハリのある生活を過ごして頂きたいと思い、行事やボランティア様による慰問を月に4～6回ほど企画しています。